

# 特別講義

## ICS COLLEGE OF ARTS

### 『地球的創造力—野生・倫理・詩』

創造力と破壊力は表裏の関係にあり、特に20世紀になり人類の生産力が飛躍的に向上するにともなって、その破壊力も途方もないものになっていった。そして、現在の芸術や建築やデザインの創造力と自然、社会、精神にカタストロフィーをもたらす破壊力（創造力）の間には、非常に親密な関係があり、実は同じパラダイムに従っている。このような状況にあって、我々は、自分たちの創造力の本質を見極め、根本から考え直すことを要求されているが、力強い模範を示してくれる人々も増えている。そうした人々の具体的な事例も含め、これからの世界にカタストロフィーをもたらさない創造力の可能性を考えてみる。



演出家・アーティスト・批評家

## 多木 陽介 先生

(たき・ようすけ)

— プロフィール —

1962年生まれ。1988年に渡伊、現在ローマ在住。

演劇活動や写真を中心とした展覧会を各地で催す経験を経て、現在は多様な次元の環境（自然環境、社会環境、精神環境）においてエコロジーを進める人々を扱った研究を展開。芸術活動、文化的主題の展覧会のキュレーション及びデザイン、講演、そして執筆と、多様な方法で、生命をすべての中心においた人間の活動の哲学を探究する。

著書に『アキッレ・カスティリオーニ - 自由の探求としてのデザイン』（AXIS）、『(不)可視の監獄 - サミュエル・ベケットの芸術と歴史』（水声社）、訳書にマルコ・ベルポリーティ著『カルヴィーノの眼』、プリーモ・レーヴィ著『プリーモ・レーヴィは語る』（いずれも青土社）、アンドレア・ボッコ、ジャンフランコ・カヴァリア著『石造りのように柔軟な』（鹿島出版）などがある。



2016年12月15日(木)

めぐろパーシモン小ホール

9:45 集合 / 10:00 開演